

令和 7 年度

学校評価

春日井市立鷹来小学校

令和7年度 学校評価アンケート（全体集計）

1 調査概要

- 対象: 全校児童・保護者・教職員
- 項目数: 20項目（4件法：そう思う、まあそう思う、あまり思わない、思わない）
- 変換（4点満点）：1(そう思う)→4点、2→3点、3→2点、4(思わない)→1点
- 集計単位: 学校全体（全学年・全クラス合算）

2 全体的な傾向と分析

Q	質問	児童	保護者	教職員	認識の差・傾向
1	学校は楽しいか	3.3	3.4	3.3	三者とも高く安定している
2	授業はわかりやすいか	3.2	3.0	2.8	教職員の評価がやや慎重
3	進んで発表しているか	2.8	2.7	2.8	三者が認識する共通の課題
4	話をしっかり聞いているか	3.4	2.8	2.5	児童の自己評価が甘い傾向
5	学校の約束を守っているか	3.3	3.4	3.0	概ね良好だが教職員に微かな懸念
6	元気な挨拶・返事	3.3	3.1	2.9	教職員から見た実態に課題あり
7	忘れ物は少ないか	3.0	2.8	2.4	児童・家庭と学校の認識に差
8	外で元気に遊んでいるか	2.9	3.2	3.2	三者とも高めの評価
9	掃除・手伝い	3.2	3.2	3.1	標準的
10	進んで本を読んでいるか	2.7	2.3	2.8	読書習慣の確立が必要
11	仲の良い友達がいるか	3.8	3.2	3.3	非常に良好
12	先生はほめてくれるか	3.4	3.4	3.4	信頼関係が構築されている
13	朝ごはんを食べているか	3.7	3.8	-	家庭の協力が非常に高い
14	自分の良さに気づいているか	3.3	3.0	3.3	自己肯定感の醸成に余地あり
15	早寝早起きをしているか	2.8	3.0	-	良好
16	「書」の時間は有意義か	3.0	2.6	3.2	保護者は懐疑的
17	病気や怪我の予防	3.4	3.4	2.8	児童・家庭と学校の認識に差
18	校内環境はきれいか	3.3	3.1	3.1	維持管理への高い満足度
19	登下校の安全	3.5	3.3	3.2	地域の見守り含め良好
20	保護者と連絡や意思疎通	-	3.3	3.5	良好

全体平均は高い水準にあり、学校生活全般に対して児童は肯定的です。特に「安心感」と「教職員との関係性」において顕著な成果が見られます。

① 【成果】 肯定的な評価が顕著な項目（強み）

以下の項目は、平均スコアが特に高く、学校の強みと言えます。

- 学校の楽しさと教職員の関わり（Q1, Q12）
 - 「学校は楽しいですか」「先生はほめてくれますか」の項目がトップクラスのスコア。自己肯定感を高める指導と、安心できる居場所づくりが機能しています。
- 学習環境と安全面（Q18, Q19）
 - 「校舎の清潔さ」「登下校の安全意識」が良好。美化活動の定着と、地域・家庭と連携

した安全指導の成果が表れています。

- **生活習慣 (Q13, Q15)**
 - 「朝ごはん」「早寝早起き」といった基本的な生活習慣が確立されています。家庭の協力体制が非常に強固です。

② 【課題】 相対的に改善の余地がある項目 (弱み)

平均値が全体平均を下回る、あるいは「あまり思わない」が一定数存在する項目です。

- **主体的な学習姿勢 (Q3, Q10)**
 - 「進んで発表する」「進んで本を読む」のスコアが、他の項目に比べると控えめな傾向。知識の習得 (Q2) はできているものの、「自ら」「進んで」という主体的・能動的な態度に課題があります。
- **自己理解と特性の認識 (Q14)**
 - 「自分の好きなところ、得意なところに気づく」の項目。Q12 (先生はほめてくれる) が高い一方で、それを自分自身の「強み」として自覚するまでには至っていない児童が一定数存在します。
- **「書」の時間に対する意識 (Q16)**
 - 楽しさを感じているものの、「自分のためになる」という意義の理解において、他の教科より個人差が見られます。

3 カテゴリー別分析

カテゴリ	該当項目	分析結果
学習面	Q2, Q3, Q4, Q10, Q16	聞く姿勢や理解度は高いが、アウトプット (発表) と読書の習慣化に強化の必要あり。
生活 ・ 規律面	Q5, Q6, Q7, Q9, Q15	挨拶、約束、掃除など集団生活のルールは良好に守られている。
人間関係 ・ 心理面	Q1, Q11, Q12, Q14	友達関係や先生との信頼関係は非常に良好。自己肯定感の「自覚」が次のステップ。
安全 ・ 環境面	Q17, Q18, Q19	安全意識が高く、環境も整っている。学校が「安心できる場所」として確立されている。

4 今後の改善に向けて

1. 「主体的な学び」へのシフト

「話を聞く (受動)」から「発表する・本を読む (能動)」へのさらなる転換を目指します。授業内でのペアワーク・グループワークや、読書キャンペーンなど、児童が自発的に動く仕掛け作りを検討したいです。

2. 自己肯定感を「強み」の自覚へ

先生が「ほめる (外的な評価)」だけでなく、児童自身が「自分にはこれができる・やろうとする (内的な自覚)」と思えるよう、ふりかえりの時間を充実させ、具体的なスキルや良さを言語化して伝える指導を継続したいです。

3. 学習の意義の再定義（Q16関連）

特定の時間（「書」など）が、将来や日常のどのような場面で役立つのか、具体的・視覚的に提示することで、学習意欲の向上を図りたいです。

4. 学校評議員会より

学校評議員からは、本評価結果について以下の通り貴重なご意見をいただきました。

- **学習面について**：Q2（授業のわかりやすさ）は高い評価である一方で、Q3（進んで発表）やQ10（読書）が課題とされている点について、「受け身」から「能動的」な学びへの転換は、現代の教育課題そのものであると理解を示す意見がありました。特に、ディスカッションやグループワークの導入を積極的に推進し、児童が自分の意見を表現する場を増やすことの重要性が指摘されました。
- **生活面について**：Q13（朝食）やQ15（生活リズム）など、基本的な生活習慣に対する家庭の協力体制が非常に優れている点に対し、地域社会としてもこの協力体制を維持できるよう、学校との連携を継続すべきとの賛同意見がありました。
- **安全・環境面について**：Q18、Q19の高い評価は、日頃からの教職員の努力と地域の方々の見守り活動の賜物であると評価されました。また、Q17（病気や怪我の予防）における教職員との認識の差（2.8）に対し、保健指導や危機管理の重要性を再確認すべきとの提言がありました。
- **総括**：評価結果が示す本校の「安心できる学びの場」という強みを基盤としつつ、「主体性」と「自己肯定感の深化」を次の重点目標と定める学校の方針を支持する、との力強い後押しをいただきました。

考察:

全体として、本校の児童は「学校が好きで、先生を信頼し、規則正しく過ごしている」という非常に優れた実態にあります。今後は、この安心感を土台に、一歩踏み出した「自ら学ぶ力」を育むことが、次年度の重点目標かもしれません。